

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記


新規受託項目

- [12488] 組織因子経路インヒビター-2 (TFPI2)

受託開始日

- 2021年8月10日(火)

採取容器

容器番号	99番	TFPI2用容器
		
容 量	5mL	
添 加 剤	凝固促進剤	
保 管 方 法	常温	
有 効 期 間	容器および箱表示	



組織因子経路インヒビター2 (TFPI2)

組織因子経路インヒビター2 (Tissue Factor Pathway Inhibitor 2 : TFPI2) は、2021年4月に新たに保険収載された卵巣癌の診断補助マーカーです。

TFPI2は胎盤タンパク質5 (PP5) として知られており、特に周産期の胎盤から強く分泌されるセリンプロテアーゼインヒビターです。卵巣癌が分泌するタンパク質の網羅解析から、卵巣癌に特異的なマーカーとして注目され、明細胞癌において特徴的に分泌されることが明らかになっています。

卵巣明細胞癌は卵巣癌の組織型のなかでも抗癌剤が効きにくく予後不良であり、子宮内膜症が発生源とされています。代表的な卵巣癌マーカーであるCA125は、卵巣明細胞癌では感度が低く、月経や腹膜炎、子宮内膜症を含む良性腫瘍でも上昇します。

TFPI2は、健常人や良性腫瘍では上昇することの少ないマーカーです。CA125との相関も見受けられないことから、両マーカーは卵巣癌の検出において補完関係にあると考えられます。さらに、卵巣癌のなかでも明細胞癌で有意に高値を示します。

TFPI2を術前に測定することにより、卵巣明細胞癌疑いの推定が可能となり、CA125などの既存の卵巣癌マーカーと組み合わせて評価することで、卵巣癌の診断性能が向上します。

検査要項

項目コード	12488
検査項目名	組織因子経路インヒビター2 (TFPI2) *1
検体量/保存方法	血清 0.3mL *2 / 凍結 [容器番号：99番]
検査方法	FEIA
基準値	191 pg/mL 未満 (卵巣明細胞癌の判別カットオフ値：270 pg/mL 未満)
所要日数	2~4日
検査実施料	190点 *3,4
判断料	144点 (生化学的検査 (II) 判断料)
報告下限	10 pg/mL 未満
報告上限	1,000,000 pg/mL 以上
報告桁数	整数、有効3桁
備考	*1：妊婦では、TFPI2が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。 *2：必ず指定容器にて採血してください。採血後、5~6回静かに転倒混和し、凝固完了を確認後、速やかに遠心機にかけ、そのまま凍結してご提出ください (採血管内での凝固反応が十分でない場合、TFPI2が高値を示すことがあります)。 *3：区分番号「D009」腫瘍マーカーの「23」CA602の所定点数を準用して算定できます。 *4：区分番号「D009」腫瘍マーカーの注1および注2の規定に準じます。

参考文献

Eテスト「TOSOH」II (TFPI2) 試薬添付文書
大竹則久, 他 : 東ソー研究・技術報告 62 : 23-28, 2018.